

エコアクション21

【環境活動レポート】

(2007年11月1日～2008年1月31日)

FUKUOKA

PAPER ECOLOGY

STATION

2008年2月1日

2008年3月3日 (改訂)

有限会社 野田商店

事業概要

1, 事業所名及び代表者名

有限会社 野田商店

代表取締役 野田 正則

操業開始年月日・・・昭和15年3月 野田商店として創業
昭和31年12月 現組織 有限会社 野田商店に変更

2, 所在地

- ・本店 〒815-0082
福岡県福岡市南区大楠1丁目4-10
福岡県福岡市南区大楠1丁目45番 (収集運搬車両駐車場)
- ・南営業所 〒816-0912
福岡県大野城市御笠川3丁目13-3
福岡県大野城市御笠川3丁目6-5 (収集運搬車両駐車場)

3, 環境責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 野田勝治
責任者連絡先 有限会社 野田商店
TEL 092-531-4756 FAX 092-531-4725

4, 事業内容

- ① 古紙卸売り業
- ② 古紙を収集・運搬・選別・圧縮梱包し製紙原料として販売
廃棄物再生事業者登録証明書 7整第796号 (本店)
廃棄物再生事業者登録証明書 7整第798号 (南営業所)
- ③ 産業廃棄物収集運搬業務
福岡県産業廃棄物収集運搬業 許可番号 [4000000679]
福岡市産業廃棄物収集運搬業 許可番号 [7700000679]
産業廃棄物の種類 廃プラ・紙くず・木くず・金属くず・ガラスくず
及び陶磁器くず・がれき類

5, 営業品目

- ① 古紙類全般
- ② 非鉄金属
- ③ ウェス (古布)

6, 事業規模

活動規模	単位	平成18年	平成19年
処理量	t	14000	14000
敷地面積	m ²	1570	1570
従業員	人	10	10
派遣社員	人	3	3

7, 保有車両

収集運搬車： 4t平ボディー 3台 4tパッカー車 5台
2t平ボディー 2台 1.5t平ボディー 4台
1t平ボディー 6台 軽トラック 1台
作業車両： 3.5tフォークリフト 1台
3t フォークリフト 1台
2.5tフォークリフト 1台

基本理念

有限会社 野田商店は、リサイクル可能な資源である『古紙』の間屋として現在、さらに未来の地球環境保全に貢献すべく、会社及び社員が力を合わせて地域社会に合った企業活動を展開します。

環境方針

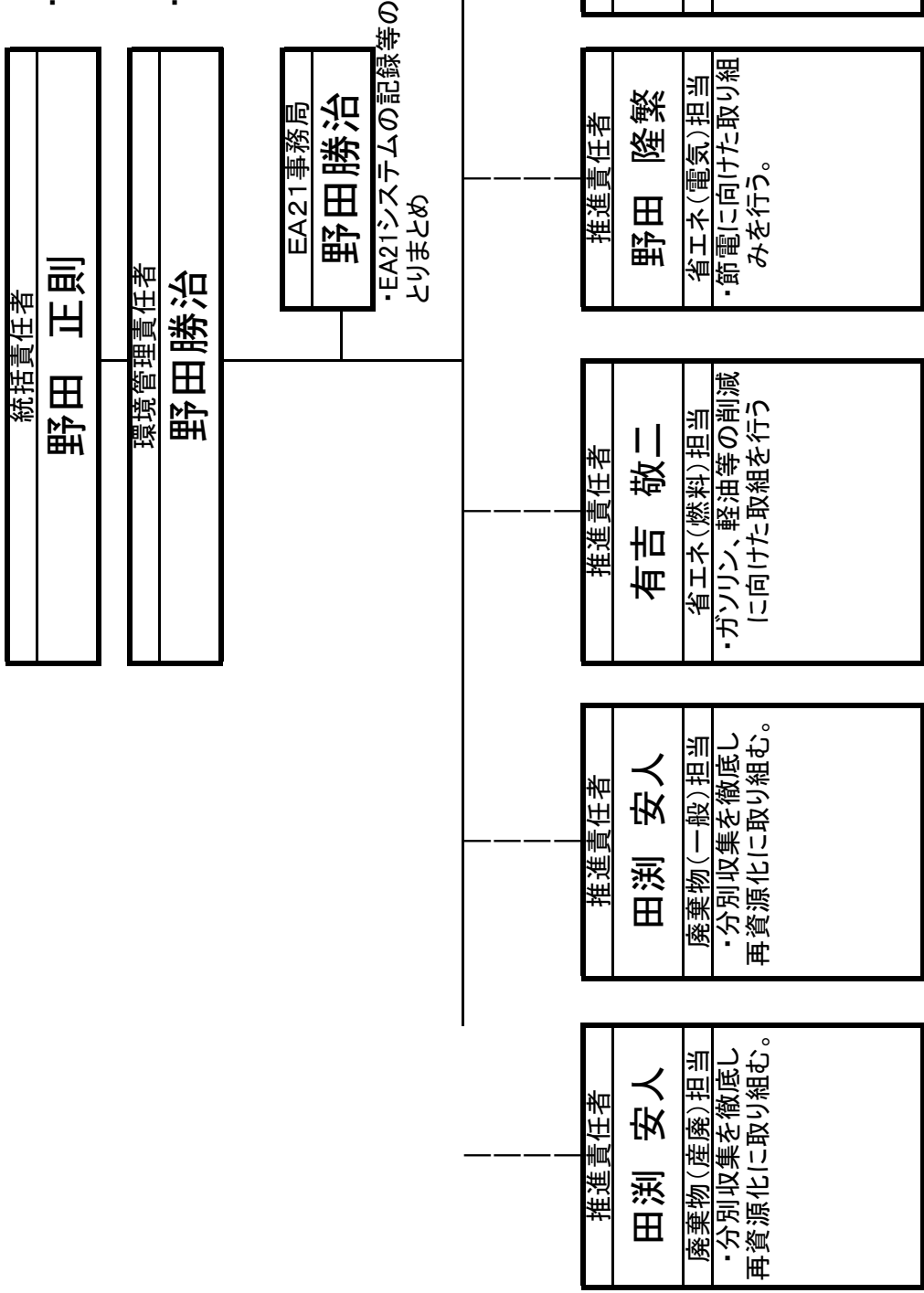
有限会社野田商店では、古紙の収集運搬、選別、圧縮梱包、出荷を主な事業活動としており、資源循環型社会の一部を担っていることを認識して、地球環境問題に貢献し、環境負荷の低減に努めます。

- ①当社の事業活動に係わる環境負荷を低減するために、次のことを行います。
 - 1, 収集運搬車両及び選別・圧縮梱包、出荷に係わる燃料の削減
 - 2, 廃棄物の削減とリサイクルの推進
 - 3, 節水と電力使用量の削減
- ②環境負荷の低減に関する取り組み状況の見直し、評価を定期的に行います。
- ③環境関連法規制を遵守します。
- ④社員及び取引業者に環境に関する教育を定期的に行い、環境方針を周知します。

2008年 3月 3日

有限会社 野田商店
代表取締役 野田正則

環境管理実施体制



環境目的・目標の設定

対象項目		平成18年度実績	環境目的 (19~21年度)	平成19年 目標	平成20年 目標	平成21年 目標
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2/t (CO2発生率)	7.08	平成18年度実績を 3ヶ年で3%削減	6.08	5.08	4.08
廃棄物の分別とリサイクル化	%		平成19年度から毎年 100%にする	100%	100%	100%
水の使用量の削減	m3	654	平成18年度実績を 3ヶ年で3%削減	661	641	635
環境への取り組みの改善	%	37.3	平成18年度実績を 3ヶ年で15%改善	39%	41%	43%
地域の環境ボランティア活動への参加		年間1~3回	年間に3~5回ほど 参加する	3~5	3~5	3~5

1. 二酸化炭素排出量については、平成18年度の『CO2発生率(CO2発生量を取扱量トンで割る)』から毎年1%削減する。
3. 水使用量については、平成18年度実績から毎年1%削減する。
4. 環境への取り組みについては、平成18年度の実績から5%改善する。
5. 環境ボランティア活動は年間に3~5回ほど実施・参加をする。

環境活動計画

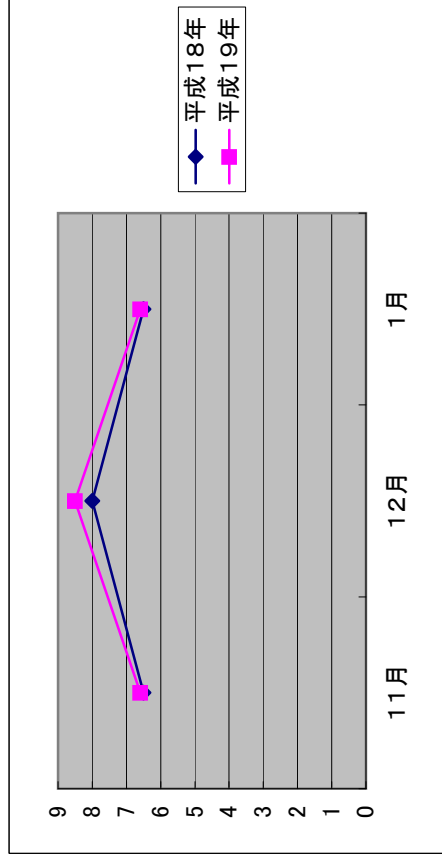
取組項目		取組内容	推進責任者
二酸化炭素削減	燃料(軽油)の削減	1. 社用車の効率的な運用(運行ルートの確認)を推進する。 2. 車両運転時はアイドリング時間の削減などの、エコドライブの実践をする 3. 燃費効率の良い車両を使用する 4. 車両ごとの使用量のチェックする	省エネ (燃料) 有吉敬二
	電気使用量の削減	1. 昼休みは消灯(減灯)し、パソコンは待機電力とする 2. 省エネタイプのOA機器の導入を推進する 3. 室内空調は適正温度に保つ 4. 啓発ポスターの掲示をする 5. 数値(kwh)の把握をする	省エネ (電気) 野田隆繁
廃棄物の適正分別とリサイクル化		1. 廃棄物の分別を徹底し、3Rを推進する 2. 廃棄物の数値を把握して減量に努める	廃棄物 田淵安人
水使用量削減		1. 節水を心がける 2. 啓発ポスターの掲示する 3. 数値の把握をする	水 野田隆繁
その他		1. 地域社会に合った環境事業活動や環境ボランティア活動の参加を推進する 2. 社員並びに取引先や業務委託業者などへの環境教育に努める	管理責任者 野田勝治

(有)野田商店
野田勝治

環境活動取組状況

	18年		19年			20年			前年比
	単位	11月～1月	平成19年(11月～1月)目標	11月	12月	1月	合計		
①温室効果ガス排出量	二酸化炭素	25360	3ヶ月で0.25%の削減目標	7607	10856	7521	25984	+0.3%	
	総物質投入量	3615		1145	1270	1140	3555		
	CO2発生率	7.015		6.643	8.548	6.597	7.309		
②廃棄物の分別とリサイクル化	%		100%の目標	100%	100%	100%	100%維持	100%維持	
③水の使用量の削減	m3	163	3ヶ月で0.25%の削減目標	88	88	88	264	+60%	
④『環境への取組』の改善	%	37.3	3ヶ月で1.2%の改善目標	37.3	38	39	1.7%UP	1.7%UP	
⑤地域の環境ボランティア活動への参加	年間1～3回	年間1～3回	年間に3～5回ほど参加・活動する	—	道路清掃	—	1回活動	—	

【CO2発生率】



事業拡大に伴い、投入量、車両台数、水使用量ともに昨年に対し増加しているためCO2発生量を投入量(取扱量)で割りCO2発生率にて比較する。

環境への取組結果

対象項目	単位	過去実績	平成19年(11月～1月)目標	取組結果		達成状況	
		平成18年11月～1月		平成19年11月～1月			
①温室効果ガス排出	二酸化炭素	kg-co2	25360	3ヶ月で0.25%の削減目標	26070	+ 0.3%	×
	総物質投入量	t	3615		3555		
	CO2発生率	kg-co2/t	7.015		7.333		
②廃棄物の分別とリサイクル化	%		100%の目標	100%	100%維持	○	
③水の使用量の削減	m3	163	3ヶ月で0.25%の削減目標	264	+ 60%	×	
④『環境への取組』の改善	%	37.3	3ヶ月で1.2%の改善目標	39	1.7%UP	○	
⑤地域の環境ボランティア活動への参加	年間1～3回		年間に3～5回ほど参加・活動する	道路清掃	12月実施	○	

環境への取組評価

①二酸化炭素排出量の削減	CO2発生率を3ヶ月で0.25%削減目標としていたが、結果は0.3%の増加となってしまった。11月と1月は平年並みだったが、12月に二酸化炭素量が増えた原因は、取扱量の増加にともなって、軽油使用量も増加したため。今後は、収集運搬車両の燃料の削減と、倉庫内で使用しているフォークリフトなどの燃料の削減目標をしっかりと立て、エコドライブのさらなる徹底につとめる。
②廃棄物の分別とリサイクル化	分別作業ができるように、まずは社内清掃から取りかかり、分別BOXの設置や啓発ポスターの掲示など、社内全体で意見やアイデアを出し合った結果廃棄物の削減や、3Rの実施ができている。
③水の使用量の削減	昨年まで、機械の冷却用水として、地下水(井戸水)を使用していたが上水に切り替えたため、水使用量が増加した。今後、さらに使用量が増えることがあれば、対応を協議する。
④『環境への取組』の改善	昨年までは、『環境への取組』の内容などあまり感心が無かったがEA21を社員全員が少しずつ把握して、個人で出来ることを一つずつ実行するようになった。今後も積極的に行動に移すことが出来るよう社内全体で意識の向上につとめる。
⑤地域の環境ボランティア活動への参加	身近で出来る環境ボランティア活動として、まず『道路清掃』を実施できた。今後も地域のイベント活動やボランティア活動など、積極的に参加・活動をしていきたい。

環境関連法規及び関連法規

環境関連法規等の遵守状況の評価の結果、過去にわたり違反、訴訟はありません。

代表者による評価と見直し

制作日 ;

平成20年3月3日

約半年前から『EA21』についての研修会参加と、3ヶ月間の実施運用期間で社員及び社内での環境問題に対する考え方が大きく変わった。

特に、自社の環境負荷状況を数値で把握し、削減目標を立て、実行するため社員全員ならびに取引業者が協力することができた。

残念ながら、実施運用期間中はCO₂発生率の削減目標を達成できなかったが今後、エコドライブなどを徹底し軽油の削減に取り組むと共に、循環資源投入量つまり本業の『古紙』の取扱を増やすことで、目標達成をめざす。

尚、環境方針・環境目標・環境活動計画・環境経営システムの変更の必要性はない。

見直しは1回/年 2月にする

有限会社 野田商店
代表取締役 野田正則